

今回は堀江貴文氏の、『本音で生きる』から紹介します。本音で生きるために必要なことは、3 つあると思っています。

■「言い訳」をやめる

本音で生きるために、まずやるべきは、「言い訳をしない」ということである。僕はメルマガを含め、人から相談を受けることも多いが、せっかく答えても、「でも〇〇だから、それはできないんです」と言われることがかなりある。その「でも」が、自分自身を不自由に行っていることに気づかないのだろうか。たとえば、「お金がないからできない」という言い訳。いまや熱意とやる気があれば、お金や人を集めることは不可能ではない。「時間がないからできない」という人もよくいるが、「時間がない」というのは、「それを始めると今やっている何かをやめなければならないが、それができない」ということなのだろう。しかし、世の中はトレードオフだ。時間がないなら、どちらかに決めなければならない。むしろ、「何かをはじめると、何かを捨てなければいけない」ということは、当たり前なことだと知っておくことだ。「自分には才能がないから」といって、行動しない人もいる。しかし、どんな功績を挙げた人でも、その人の努力によるところが、ないはずがない。「でも」という縛りをとってあげるだけで、もっと自由に行動を起こしていけるのではないだろうか。

■ バランスをとろうとしない

「やりがいのある仕事をバリバリやりたいが、「家族サービスのためのゆったりした時間も欲しい」。「趣味の時間は今より減らしたくない」が、「もっと収入は欲しい」。多くの人は、「バランス」をとろうとせずすぎる。でも、それはちょっとずるいと思うのだ。仕事も家庭も趣味も、なんでもかんでもいいとこどりで、バランスのとれた生活をしたいと言っておきながら、もっと時間を効率的に使いたいとか、チャレンジの多い人生を送りたいとか、人間関係で悩みたくないとか……。それははっきりいって無理だ。本当にやりたいことがあるのなら、バランスなんてとらないことをお勧めする。むしろ、極端でいいのだ。やりたいことをする一方で、世間的にやるべきと思われる義務を果たさなければと考える人も多だろう。しかし、「こうでなければならない」という思い込みから抜けられなくなってしまうと、「バランス」をとることに必死になり、やりたいことも中途半端になり、体も壊してしまったりする。そんなことで中途半端な生き方をするなら、最初から「バランス」などとらないほうがいい。

■ 「自意識」と「プライド」を捨てる

最後は、「プライド」と「自意識」だ。みんな自意識過剰なのだ。でも、他人のことなんて、実は誰も気にしてはいない。「どう見られているか」など、気にしていても仕方がない。むしろ「プライド」をなくすほうが、みんなから愛される。年をとってくると、プライドがものすごく高い人と、全然なくなる人と二極化してくるようになる。プライドがものすごく高くなって、気難しいおじいさんや、おばあさんを想像してほしい。こわばった表情のまま、ひとりですまらなそうにしている、誰も話しかけてこない。「あーあ、かわいそうだな」と思ってしまう。「プライドをなくせば、もっと楽になれるのに」プライドはなくなったほうが、みんなに愛される。確実にとっつきやすくなって、人が寄ってくる。逆に「すごい自分でいなければいけない」とか「相手に嫌われたらどうしよう」と思って、プライドが高くなると、結論として、相手が自分の側に来づらくなる。あなたも、そう思わないだろうか？

■ プライドの低い人がいちばん強い

結局、プライドの低い人が、得をすることも多い。プライドがないから、誰にでも声をかけられるし、なんにでも挑戦できる。普通の人には「こんな有名人に声をかけたら、嫌がられるのではないか」「失敗したら、『できないやつ』だと思われるのではないか」と躊躇してしまう。要は、自分のプライドが傷つくのを恐れているのだ。一方、プライドのない人は、恐れるものはないから、どんどん他人に声をかけ、どんどん挑戦している。挑戦してみてもわからなければ、迷いなく誰かに尋ねる。どちらが得をするのかは、明白だろう。「言い訳」しない。「バランス」をとろうとしない。「自意識」と「プライド」を捨てる。3 つ挙げたが、まず始めるなら「言い訳しない」がいいだろう。言い訳をやめると、本当にすっきりする。すぐに動けるようになる。これだけでも、今からやってみて欲しい。

Q1: 本音で生きるために必要なものは何ですか？

A1( )

Q2: 自分の思うように生きるために意識している事はありますか？

A2( )